

二中学区地域の輪をつくる会

3つの誓い

- ふれあいの輪を 広げましょう。
- あいさつを かわしまししょう。
- 明るい家庭生活を 築きましよう。

vol.94

ふくわ

●発行 二中学区地域の輪をつくる会 ●編集 広報委員会 ●事務局 市毛コミュニティセンター内・ひたちなか市市毛980・TEL.029(272)3766 ●印刷 弘美印刷(株)

令和3年度 二中学区地域の輪をつくる会 定期総会

“書面表決”で実施 —新型コロナウイルス感染防止のため—

定期総会：書面表決で対応

—全ての議案が可決—

二中学区地域の輪をつくる会の定期総会は、4月17日に開催予定をしていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、書面表決となりました。

議決権を有する代議員72名に議案書と表決書を送付し、71名から各報告並びに各議案について、賛否の回答を得ました。

回答を得た表決書の確認を4月17日、本会監事及び市毛北、市毛南自治会長の立会いの下、集計を行いました。

その結果、全ての報告及び議案について、過半数の賛成を得て可決されました。

新年度に際して

会長あいさつ



二中学区地域の輪をつくる会 会長 兼山 隆

令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止が最重要課題として、ターゲットとなりました。この原稿を書いている現在(5月中旬)において、ひたちなか市は感染拡大市町村には指定されておりませんが、近隣自治体が指定され不穏な状況が続いており安心とは程遠い気分での生活を余儀なくされております。

本会の活動も四半期は、すべての事業を中止とさせて頂いてまいりました。7月以降の事業につきましても、感染症に対する切り札であるワクチン接種の進捗状況により判断してまいりたいと考えております。

そのような状況下において、「少年の主張大会」は7月8日に予定されており今年度は勝田二中学区が担当になっておりますので3密を避

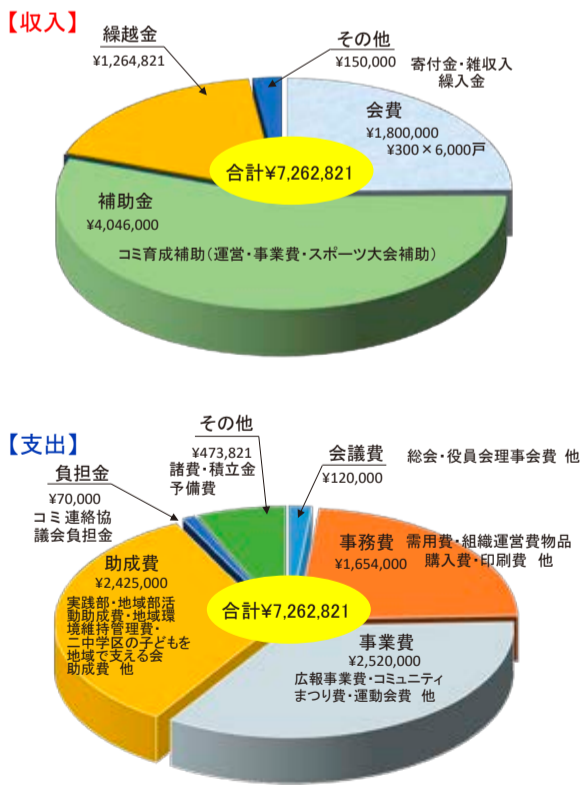
けながら安全対策を講じ工夫を凝らして実施したいと考えているところでもあります。

また、市から委託を受けて管理運営をしております津田・市毛コミュニティセンターは細心の注意を払いながら開館しておりますが、消毒や検温・ソーシャルディスタンスの確保など利用者であります地区住民の皆さまのご理解とご協力により、今日まで安全な運営ができておりますことに対しお礼と感謝を申し上げます。

これまで本会の設立目的であります地区住民の絆づくりのために、様々な事業を実施してまいりましたが、冒頭に申しましたようにあらゆる事業を中止にしているところでもあります。

日常生活においても、現在は自粛モードの中でみなさんは大変不自由を強いられていることと存じます。離れて暮らす親族との往来もままならぬことでしょうか。しかしながら、感染症に打ち勝つた時には旧に倍して会員の皆さんのふれあいの場・憩いの場の提供に尽力してまいりますので、今は忍耐の時と定めともに耐えてまいりましょう。

令和3年度予算

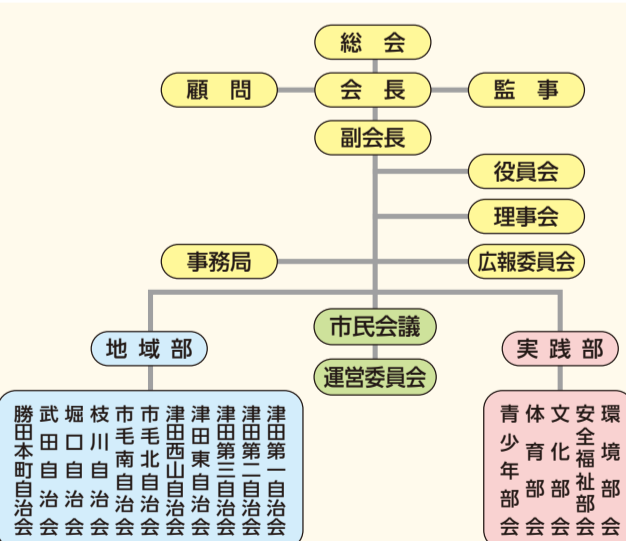


退任者へ感謝状贈呈

今回、二中学区地域の輪をつくる会を退任された功労者へ感謝状が贈られました。

- 津田第三自治会長 七戸 光雄
- 和地 孝康
- 石田 健一
- 黒澤 正子
- 黒谷 美栄子
- 国谷 栄子
- 畑内 政晴
- 石川 政晴

二中学区地域の輪をつくる会組織図



事業計画の重点項目

(1) 地域部と実践部の連携による活動の推進

- ・ 青少年の健全育成
- ・ 福祉活動の推進
- ・ 地域環境の改善、浄化、美化
- ・ 「ふれあい会議」の推進

(2) 住民の相互信頼とふれあい運動の推進

- ・ 地域や家族での「あいさつ」の奨励
- ・ 健全な家庭づくり運動
- ・ 体育、文化行事への住民参加
- ・ 地域に根ざした学びあい活動

1面 定期総会 会長あいさつ 退任者へ感謝状贈呈

予算 組織図

2面 新任自治会長あいさつ 二中学区の歴史を探る

3面 二中学区の歴史を探る 少年の主張大会 役員・コミセン職員紹介 ほか

4面 地域トピックス 案内板・広報委員紹介 編集後記など

新自治会長あいさつ



津田第三自治会長 宇留野 騎一郎

第三自治会会長の任を受け、先輩方の栄えある実績を大切に、一方コロナ禍と相まって、どのように事業展開するか暗中模索の中心ターゲットしました。

「安全で安心な街づくり」を目標に、「地域のことは地域で支え合い、助け合い、明るく楽しく元氣よく強めよう地域の絆」を掲げ、「子どもの見守り」「高齢者の見守りと支援」「防犯・防災活動」「生活環境の整備」「地域のふれあい」などの自治会事業・行事を通して実行してまいります。

皆様のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

二中学区の歴史を探る ②

今回も編集検討により、2面・3面に「歴史を探る」第3章「村のうつりかわり」を掲載するものとしました。

私たちが暮らす二中学区は、時代とともに様々な変化を遂げてきました。人々の営みは少しずつ形を変えて今に至ります。生まれ育ったこの地の歴史を少し振り返ってみましょう。

「ムラ」のうつりかわり

二中学区には、古くから武田・枝川・津田・市毛の4つのムラ(村)がありました。

このムラの主なうつりかわりについて振り返ってみようと思

武田

地名は大変古く、平安期の常陸那賀郡二十二郷に(角川日本地名大辞典)に記されています。

「武田山ト号ス、コノ辺凡テ武田郷ナルコト推シテ知ル」として、武田・勝倉・堀口・枝川・津田・市毛・田彦・稲田・菅谷の九つ村を武田郷としています。

2万5千年前の遺物出土

武田は、那珂川下流域に位置

甲斐武田の発祥地

現在の湫尾(ぬまお)神社前あたりから常磐線を越した反対側にある自衛隊敷地内の溜池にかけての台地に、武田氏の中心地があったとみられています。

明治30年常磐線(水戸～平間)の開通、昭和43年(1968)常磐線の那珂川鉄橋の掛け替え工事によって山が崩され、今では全く面影が無くなりました。

し、台地上には古来から人々が生活をしてきたことが分かっていました。武田地区は、区画整備事業に合わせ発掘調査を行いました。

その結果、武田遺跡群(西塙・石高・原前)から見つかった一番古い時代の遺物は、なんと約2万5千年前の旧石器時代のものです。

(武田氏館に展示されています)

勝田村の発足へ

武田は、天保13年(1842)頃、久保・猫山の2組、原の2坪からなり、当時48戸ありました。

約180年後の現在は世帯数で463戸(2018年)になっています。

明治17年の連合村では、勝倉・三反田、中根との連合村、明治22年に勝田村となりました。

勝田村の名称は、勝倉の「勝」と武田・三反田の「田」とをとり名付けられました。

「ふるさと創生事業」で復元された武田氏館は、平成3年12月に甲斐武田氏発祥の地を顕彰するために、湫尾神社の北側に建設されました。

館は、鎌倉時代の地方豪族の館を参考にし、主殿作りとなっています。



武田氏館の外観

艦砲射撃をうける

武田地区には、戦時中軍需省指定場の「岩佐鉄工所」「日立兵器」(現在の工機ホールディングスの地)が操業していました。そのため、昭和20年7月、工場破



九九式八インチ高射砲

壊を目的として米軍による艦砲射撃を受け、地内で8名が亡くなったのでした。

武田西塙遺跡の発掘調査の際「九九式八インチ高射砲」が設置されていた珍しい遺構が発見されました。

(勝田市史・聞き取り)

甲斐国に配流「清光 濫行」

「長秋記」によれば、大治5年(1130)12月30日の条に「常陸 住人清光濫行の事等を申すなり、子細目録に見ゆ」と記されています。

12世紀初めごろの武田郷周辺の地は、吉田神社や吉田郡の郡司職を相伝する常陸大掾の一族吉田清幹・盛幹父子、鹿島神社の中臣氏、武田の地に拠点を構えた(源)義清・清光父子らが互いに勢力を張り合っていたが、勢力拡張をあせ



「ふるさと創生事業」で復元された武田氏館

そのために、吉田郡地方に隠然たる勢力をもつ吉田清幹らに疎外され、「清光濫行」のうえをもつて告発された。特に大治2年(1127)に義光が世を去ったからは、在地勢力の義清・義光に対する風当たりが一層強まったものと考えられる。清光の濫行を訴えた国司は、常陸介の藤原盛輔でありました。

その結果、義清・清光父子は告

発された直後、甲斐国河荘(山梨県西八代市川大門町)に配流(はいる)になった。甲斐国と清和源氏は関係が深く、祖先が培った父祖ゆかりの地に土着した義清は、やがて子清光を八ヶ岳山麓の逸見荘に配して着々と勢力拡張の基礎を固めていきました。

その後この地域は、吉田大掾一族 武田七郎(平勝盛)によって支配されました。

「甲斐武田氏発祥の地 常陸武田の里」

堀口

堀口遺跡からは、弥生後期以降の遺構が出ています。出土した奈良時代ごろの土器には、「里」という文字が書かれた墨書土器がありました。

鎌倉時代は、吉田盛家(堀口八郎)が堀口郷の地頭として土着し支配していた。館跡は、堀口小の西側と考えられています。

堀口の地名は、ムナセ堀を堀口側から掘り進められたところから名付けられたと言われている。ムナセ堀の地名は市毛にあるが、堀跡も現在残っている。

ムナセ堀は、早戸川の水を堀口まで引き、その水で那珂川北側の沖積地を開田しようとして計画した灌漑堀だったようです。

「ムナセ」とは、「むなし」がなまったもので、「むなし」には、「かひがない。無益である。むだである」の意味があり、ムナセ堀は、むだな堀ということになる。つまり灌漑堀の大工事に失敗してしま



館跡推定地…堀口字表坪(堀口館HP)

まったということでありました。

(勝田市史)

佐竹氏が支配した時代は、東義久の知行地で石高は130石7斗。水戸藩時代の寛永12年(1635)の石高は183石2斗で、藩士・岡田惣十郎の知行地でした。また初期には、水戸城下に近いことから侍屋敷(下屋敷)が置かれていたこともありま



光明寺下の不動明王



ムナセ堀跡

なお、堀口の集落は、古くは長久保官林(元日製勝田工場)の方にあつたが、日照りがあり、現在の地に移住したそうです。当時の戸数は5戸ぐらいだったといわれています。江戸時代の天保年中は33戸、明治43年頃は20戸、昭和に入り日立製作所の進出に伴い、急激に人口が増加しました。

(市報かつた)

昭和39年には、一部が共栄町・元町になり、昭和40年には、中原町・本町となりました。

(角川日本地名大辞典)



清水家・屋敷内の市保存樹木(ヤマザクラ) ※平成31年4月堀口公園として整備された

堀口の寺子屋

現在、堀口市内には、昭和41年4月1日に開校した「ひたちなか市立堀口小学校」があるが江戸時代の庶民は「寺子屋」に通っていました。

堀口の寺子屋は、庄屋の清水家の屋敷内に設けられていた。開設時期は、慶応4年(1868)から明治4年まで、清水家の長子を教育するためだったが、堀口市内の9歳から16歳ぐらいの男子も10名ほど通っていた。授業内容は、専ら読み書きで、清水家には、今でも当時使われていた教科書、文庫箱、字指し棒などが残されています。

二中地区 市政懇談会の開催

7月1日(木)市毛コミセンにて、令和3年度市政懇談会が開催されました。

大谷市長・渡邊副市長・野沢教育長ほか、当地区からは兼山会長ほかコミセン職員と各自治会長などが出席しての懇談会でした。

なお、コロナ禍の状況を踏まえ参加者を特定して開催いたしました。

市長より、市政についての詳細な報告・説明を受けた後、質疑応答と懇談を行いました。また、各地区の課題について

高齢者ふれあい サロンの開設

子どもふれあい館の中に、高齢者ふれあいサロン「たまり場いちげ」が4月1日開設されました。皆様がつるぎる拠点として、月曜から土曜の10時から15時までオープンしています。

常設の「ふれあいサロン」としては、ここが市内で第一号となります。入口の赤いのぼり旗が目印です。

皆様、散歩がてらコーヒなどを飲み、どうぞおいしく来てください。卓球もできますよ。



赤い旗が目印です



運動後は何を飲んでもおいしいね!

も質疑応答が行われました。「まどめ」として、地域の活性化を目指した自治会活動は大変重要であり、女性や若い人の視点も必要とのこと。

時代の変化に対応した活動には、行政と連携して取り組む必要とのお話しで、懇談会が閉会されました。



市政懇談会の様子

一年ぶりの グリーンヘルパー始動

昨年度はコロナ禍により中止としていた、グリーンヘルパー(館庭などの除草作業)を、今年に収束の見えない状況の中で、今年度は十分な対策をしながら、例年通り実施することとしました。

第1回目は、4月2日、満開に咲きほころぶ桜花のもと実施いたしました。

今後は、月2回(原則1日・15日)9月まで予定してまいりますので関係者のご協力をお願いいたします。



グリーンヘルパーの皆様による除草作業の様子

少年の主張大会を開催して

7月8日(木)二中学区担当としては8年ぶりとなる「ひたちなか市少年の主張大会」が文化会館で開催されました。

コロナ禍ですが、生徒さんの安全な発表の場をつくることを最優先に調整を重ね、2年ぶりの主張発表となりました。感染防止のため入場者を制限して、運営にあたる実行委員会を含め全席指定の169名とし、主張大会の模様は、学校などで同時に視聴して頂けるよう、インターネットを利用したライブ配信を採用し、学校のみで開示したURLをご存じの方だけが視聴できるように配慮しました。

教室で視聴した生徒は、自分達の代表の立派な発表にエールを送っていました。



青少年部会



教室のモニターで視聴する生徒

会長・副会長 自治会長・部会長 紹介

- | | |
|--------------|---------|
| 本会 会長 | 兼山 隆 |
| 本会 副会長 | 市毛 洋一 |
| 本会 副会長 | 佐藤 大 |
| 本会 副会長 | 西野 幸一 |
| 津田第一自治会長 | 柳橋 正高 |
| 津田第二自治会長 | 海老原 積 |
| 津田第三自治会長 | 宇留野 騎一郎 |
| 津田東自治会長 | 関 正俊 |
| 津田西山自治会長 | 海老澤 寛 |
| 市毛北自治会長 | 蒲生 哲雄 |
| 市毛南自治会長 | 橋本 和雄 |
| 枝川自治会長 | 近藤 清二 |
| 堀口自治会長 | 佐藤 大 |
| 武田自治会長 | 武田 和時 |
| 勝田本町自治会長 | 上野 貞次 |
| 環境部会長 | 藤田 弘 |
| 安全福祉部会長 | 打越 慎武 |
| 文化部会長 | 飛田 忠幸 |
| 体育部会長 | 松崎 栄夫 |
| 青少年部会長 | 弓削 仁一 |
| 広報委員長 | 武田 光保 |
| 事務局 長 | 照沼 滋 |
| ふれあいコーディネーター | 関山 純子 |

コミュニティセンター 職員 紹介

- | | |
|--------------|--------|
| センター 長 | 兼山 隆 |
| 副センター 長 | 照沼 滋 |
| 事務 長 | 石井 幸次郎 |
| 事務 長 補 佐 | 米谷 郁子 |
| 窓 口 担 当 | 高林 智子 |
| 窓 口 担 当 | 高野 幸子 |
| 窓 口 担 当 | 角田 五保子 |
| 津田コミュニティセンター | |
| センター 長 | 兼山 隆 |
| 副センター 長 | 大畑 まり子 |
| 事務 長 | 酒井 由紀 |
| 事務 長 補 佐 | 庄子 真由美 |
| 窓 口 担 当 | 池上 保久 |
| 窓 口 担 当 | 山形 公子 |
| 窓 口 担 当 | 友部 敦子 |

地域トピックス

環境&安全パトロールを実施

津田西山自治会

6月14日(月)コロナ禍が続く中、環境部会員・安全福祉部会員を中心に少人数での地域内環境&安全パトロールを実施いたしました。

道路端や草むら等への不法投棄やゴミのポイ捨ての状態監視と回収、公園遊具の点検や道路標識、白線等の目視確認および夜間での防犯灯点検等を実施し、地域内の美化と安全・安心確保を図りました。



公園内遊具点検

地域ふれあい交流会

枝川自治会

5月30日(日)転作センターにおいて、自治会役員と地域内の新任組長・各団体長など50名の参加により「地域ふれあい交流会」を開催しました。



地域の皆さんで楽しい競技を!

を行いました。皆さん真剣に的を狙いながら会話も弾み楽しいゲームでした。

今年「コロナまん延防止」対策を考慮して昼食・懇親会を中止し、地域の顔合わせのみとしました。今後の諸活動に向けて絆も強まり有意義な交流会でした。

街路樹木の除草

津田第二自治会

6月13日(日)山新から那珂市へ通じる道路沿いの街路樹木の除草を実施しました。

自治会では10年前から、45の街路樹木を自治会の各組、各係に割り当て、カンナを育てています。

会員の協力により、もう咲き始めた花もあり、今年も赤や黄色の花が楽しめると思います。通りかかった時は、ぜひ鑑賞して下さい。



今年も咲いてね!

防犯・交通安全教室の開催

勝田本町自治会

5月16日(日)に自治会館において防犯・交通安全教室を開催しました。

当日は、ひたちなか警察署及びひたちなか市生活安全課交

通安全教育指導員の皆様が大

人向けに防犯意識の高揚を目的とした講話、子供向けには交通安全に関するお話を頂きました。

これを機会に地域皆様の防犯・交通安全への意識が高まればと思います。

実践部会活動報告

実践部会活動報告

環境部会最近の活動

環境部会

コロナウイルスの蔓延により我慢の日々の中、昨年10月に、津田運動公園広場北側の市道植樹木に植えたパンジーの花も終わりに近づいてきています。今年度もパンジーの植栽、早戸川岸の清掃、不法投棄パトロール等を行い、地域環境の美化を促進する活動を行います。



パンジーの状態 (R2/10 植付)

自治会自慢

本町第二公園

勝田本町自治会

緑豊かなこの公園には、多種多様な樹木が植えられています。3月にはセコイヤの若葉が芽吹き、10月にはモミジが赤く色づき始めます。季節を感じられるこの場所は、コロナ禍を癒す憩いのスポットとして、子どもたちが集まって遊んだり、高齢者の方々がグラウンドゴルフを楽しむのに利用されています。



緑豊かな憩いのスポット!

早戸川・おさえん川の除草作業

早戸川草刈り隊

6月20日(日)に津田・市毛の有志約30名で、早戸川・おさえん川の除草作業を行いました。以前は津田げんき会の事業として除草作業を行っていましたが、会員の高齢化に伴い、現在は津田・市毛のソフトボールチームなどから募った協力者によって、毎年6月と10月に実施しています。

当日は小雨が降る中でしたが、参加者は刈払い機を上手に使用して、草を刈り、遊歩道がさっぱりしました。コロナ禍で運動不足になりがちですが、木陰が多い遊歩道を川の流るのを感じながら散歩するのも良いのではないでしょうか。



早戸川草刈り隊の皆さん

案内板

- ◆市毛夏祭り 中止 (7月31日(土))
- ◆堀口夏まつり 中止 (7月31日(土))
- ◆武田夏まつり 中止 (7月31日(土))
- ◆勝田本町祭り 中止 (8月7日(土))
- ◆津田夏まつり 中止 (8月1日(日))
- ◆枝川子ども夏まつり (8月22日(日))
- ◆津田東三世代交流会 (10月17日(日))
- ◆枝川三世代ふれあい交流会 (11月6日(土))
- ◆敬老会(各自治会)式典など中止 (9月に予定(堀口は検討中))
- ◆第27回二中地区秋季大運動会 (10月10日(日)) 中止
- ◆第36回コミュニティまつり (11月13日(土) 14日(日)) 中止

令和3年度 広報委員の紹介

今年度「ふくわ」の編集を担当する広報委員です。よろしくお願いたします。

- 二瓶 一彦 (津田第一)
- 桑原 雄二 (津田第二)
- 綿引 恒夫 (津田第二)
- 阿部 真栄 (津田第二)
- ◎武田 光保 (津田第二)
- 槍崎 芳光 (津田第二)
- 小高 一夫 (津田第二)
- 藤野 博己 (津田西山)
- 海老澤 寛 (津田西山)
- 本間 靖男 (津田東)
- 金澤 淳子 (市毛北)
- 小磯 幸野 (市毛北)
- 小松 健 (市毛南)
- 奈良 安彦 (市毛南)
- 琴尾 祐之 (市毛南)
- 荻野 正則 (市毛南)
- ☆小澤 憲正 (市毛南)
- 津田 征夫 (堀)
- 金田 正次 (堀)
- 五十嵐 圭一 (武)
- 青野 宇紀 (武)
- 高美 友明 (勝田本町)
- 桜井 寛之 (勝田本町)
- 佐藤 大 (堀)
- ◎委員長兼編集長
- 副委員長
- ◇書記
- ☆会計

編集後記

コロナ禍がここまで人生を狂わせるとは誰も予想していませんでした。特に人とのコミュニケーションの機会は激減し、その分ストレスが増える結果となりました。

本紙3月号も、編集委員会開催が困難となり、止む無く休刊と致しました。この事は創刊以来、初めての出来事です。今回も、各実践部会の活動が出来ませんでした。結果として、7月号も通常通りの紙面構成は難しくなりました。

そこで93号で好評を頂きました『続・二中学区の歴史の変遷』を掲載する事といたしました。